

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 大塚 まり 所属: 東村山市立萩山小学校 記録日: 2020年 2月 8日
キーワード: 読み書きの困難に対する支援(コミュニケーション、読み書き支援、学び方・学習支援)

【対象児の情報】

- 学年 小学生
- 障害名 読み書き障がいの疑い 注意欠損多動性障がいの疑い
- 障害と困難の内容
 - ・読むことや書くことへの困難さがある。(自分で読むと内容を理解することが難しい。平仮名表記が多い。)
 - ・集中して取り組むことの困難さがある。(苦手な教科では学習に参加することが難しいことがある。)
 - ・自分の気持ちや考えを伝えることに自信がなく、自分から気持ちや考えを表出することが少ない。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - ①自分の得意なこと、苦手なことを理解して、自分に合う学び方を身に付け、定着を図る。
 - ②気持ちや考えを整理する方法を身に付け、自身から気持ちや考えを伝えることの自信につなげる。
- 実施期間 2019年5月～ 2020年 2月
- 実施者 大塚 まり
- 実施者と対象児の関係 特別支援教室巡回指導教員
(小集団指導2時間、個別指導1時間) ※実施者の対象児への支援は個別指導1時間。

【活動内容と対象児の変化】

- 対象児の事前の状況
 - ・衝動性が強いので、自席につくことが難しく、学習に集中して取り組むことが難しかったため、特別支援教室に小学1年11月から通っている。
 - ・現在、特別支援教室での指導・支援を週3時間受けている。(小集団指導2時間、個別指導1時間) ※実施者の対象児への支援は個別指導1時間。

学習面 (昨年度の状況)

- ・情報を記憶して留めておくことや整理して推論することが難しく、在籍学級での学習に困難さが見られる。授業中に挙手をするが、当てられると「忘れました。」と答えることが多い。
- ・宿題を提出できないことやテストを白紙で提出することがあった。担任がテスト問題を読み上げると、平均点以上の得点が取れた。テストの時に担任に問題を読んでもらうことを勧めると、「それはやらなくていい。みんなと同じようにやるし、やれるから。」と抵抗を示した。
- ・国語の音読はたどたどしく、読み間違いも多く、音読で内容を理解することは難しい。
- ・文章を書く時にはほぼひらがなで書いている。清音の想起はできるが、促音、拗長音の表記ミスが多い。
- ・書くことに抵抗を示しているが、特別支援教室での書く課題に対しては抵抗することは少ない。
- ・理科や社会の授業への意欲はあり、自分の考えを発言する場面がある。しかし、板書や観察・実験記録、社会科での新聞作り等の活動は苦手なため、担任が声をかけても取り組むことは難しい。

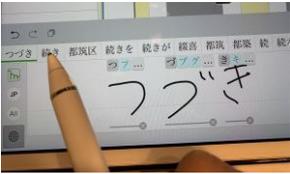
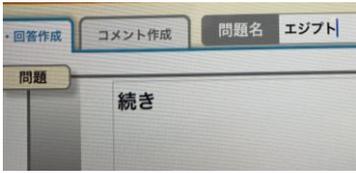
- ・生き物が好きで、生き物に関係する仕事をしたいと話している。また生き物に関する本を読んでいることも多い。
- ・本人の願いとして、「6年生になったら勉強が難しくなるから、特別支援教室を卒業してクラスで勉強したい。」という思いを話している。

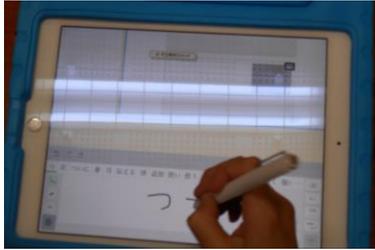
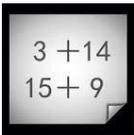
行動面（昨年度の状況・今年度になってからの状況）

- ・自分の思いや考えを相手に上手く言葉で伝えることが難しいことがある。
- ・相手に自分の思いが伝わらず、衝動的に相手に暴言を言ったり叩いたりしてしまうことがあった。
- ・対象児童に、頑張りたいことを尋ねると、「けんかをしない。」と話し、本児としては学習面より友達とのかかわりに課題を感じている様子がうかがえた。
- ・今年度になり、クラス生活や担任に対する安心感がもてるようになり、友達とのトラブルがほとんどない。対象児も「けんかはしていない。もう大丈夫。」と話している。
- ・昨年度のように、うれしい時やイライラしている時など行動や言葉で表出することが少なくなっている。「言いたいことはあるけど、うまく言えない。」と話すことがあった。
- ・今年度になり、これまで以上に周りの友達からどう見られているかを意識していて、「iPad を使って学習はやりたいが、友達に知られたくない。」と話していた。

○活動の具体的内容と対象児の事後の変化

①自分の得意なこと、苦手なことを理解して、自分に合う学び方を見つけ、定着を図る。

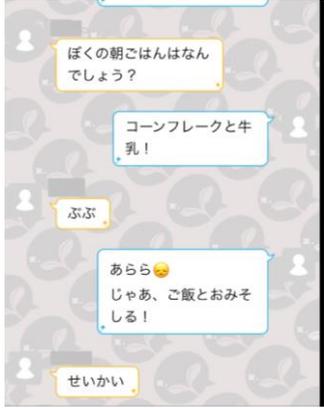
ねらい	活動内容	対象児の変化
<p>・書くことの代替方法を見つける。</p>	<p>書くことへの苦手意識が強かったため、書くこと以外の方法での文字入力に取り組む。</p> <p>1学期 50音キーボード</p>  <p>「mazec」を使った手書き入力</p>  <p>▲手書きしたものから予測変換</p>  <p>▲上記の手書き文字がテキストへ</p>	<p>◆50音キーボードでの文字入力の難しさ。</p> <p>児童は書きたい言葉や漢字を想起することが難しいため、入力したい文字を50音表から見つけられる50音キーボードでの入力を提案した。しかし平仮名を一文字ずつは理解しているが、50音表の配列は記憶していなかったため、入力したい文字を50音キーボードから探すことに時間がかかり疲れてしまっていた。また、必要な文字を入力し、その後に続く文字や入力したい言葉自体を忘れてしまう様子も見られ、50音キーボードは児童にとって有効な手段にならなかった。児童は、50音キーボード入力を避け、付箋やホワイトボードに書いたりしていた。</p> <p>◇「mazec」による手書き入力での文字入力する機会が増えた。「やっぱり書く方が楽。」</p> <p>「mazec」のアプリを使うことで、文字入力の際、ローマ字・50音・フリック入力に加えて、手書き入力の選択が可能になった。児童は、手書き入力であれば枠やマス目がなく、字の大きさを気にすることなく直接書けること、その文字がテキストに変換できること、字形が多少崩れていても認識すること、予測変換が出てくることなどから、入力の負担が軽減した。文字入力の際には、必ず手書き入力を選択し、直接タッチパネルに入力したい文字を</p>

		<p>書きテキスト変換することで、入力にかかる時間が短縮された。さらに文字入力する機会や文字入力数も増加している。</p> 
<p>・読むことや書くことへの抵抗の軽減。</p> <p>・調べ学習への抵抗の軽減。</p>	<p>『好きなもの調査』 大好きなものを・ことを調べながら、読むこと・書くこと・調べ学習に取り組む。(1・2学期:いきもの調査 3学期:古代文明調査)</p> <p>調べる 図鑑/地図帳/「Web 検索」「学研ムービー図鑑」等</p>  <p>まとめる 付箋/ホワイトボード</p> <p>伝える ※クイズを作成し担任に出す。 「AC Flip」「〇×クイズメーカー」</p>  	<p><u>◇好きなものことなら、読むこと・書くこと・調べることも意欲的に。</u> 大好きなものを調べるために、検索したいことを文字入力し、情報を集めることができた。大好きなものに関する情報は、自身で読もうとする姿が見られた。すでに知っている情報もあり、内容を理解することもできたため、読むことや調べることへの意欲が高まった。児童が一人で調べたことを手書き入力で記録したりまとめたりすること、さらにそれを参考にすることも増えた。</p> <p><u>◇調べたことを伝える楽しさを感じられた。「また先生にクイズを出したい！」</u> 「好きなもの調査」を始めたばかりの時、調べることには意欲的だったが、まとめることには抵抗があった。「調査報告を担任の先生にしよう!」と提案すると、児童が「クイズで調査報告をする!」と決め、担任にクイズで調査報告をした。2学期は手書き入力で担任にクイズを作成した。担任から「よくできているね。友達にも出してほしいな。」と褒めてもらった。クイズを出した後、「ドキドキした。またクイズを出したい。」と話していた。</p> 
<p>・漢字への苦手意識の軽減。</p>	<p>1・2年生で学習する漢字の復習時間の設定。(毎回5~10分)</p>	<p><u>◇学習した漢字を自分から書こうとすることができた。</u> 漢字を書くことは「面倒だ」と話していたが、「国語海賊」は選択肢から正しい漢字や読み方を選ぶことができるため、対象児にとって取り組みやすかった。各ステージを</p>

<p>・クラスの学習や宿題につなげる。</p>	<p>「国語海賊」を活用して、漢字の読みや形を確認する。</p> 	<p>クリアした時に獲得する漢字メダルの漢字を集めるようになり、「これ、漢字メダル見なくても書けるよ」と獲得した漢字を書くこともできた。</p>  <p>▲ 獲得した漢字メダルの漢字を記入</p> <p>◇<u>家庭で「国語海賊」で漢字に取り組むことも。</u> 特別支援教室で取り組んだことで、「国語海賊」に関心を持ち、お家の人にアプリを入れてもらい「国語海賊」やったことを報告してくれた。</p>
<p>・目標をもって学習に取り組む。</p>	<p>アンケート(学期に1~2回)を実施。</p> <p>主なアンケート内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得意なこと、苦手なこと ・iPad を使って学習したいこと ・iPad の学習を通して、良かったこと、大変だったこと ・今後やってみたい取り組みなど 	<p>◇<u>自身の得意・苦手を受け入れ、友達にも伝えられた。</u> 特別支援教室啓発授業において、友達の前で自身の得意なこと・苦手なことを発表できた。</p> <p>◇<u>iPad を使った学習への意欲が高まった。</u> 1学期は「iPad を使った学習をしていることを友達に知られたくない。」と話していた。2学期になり、徐々に「iPad を使った学習を友達に知られても大丈夫。」と話す。(2学期:仲の良い友達 3学期:クラスの友達) 1学期は「iPad を使ってやってみたいことは特にない」と話していた。iPad での様々な活動を通して、iPad を使うと苦手感じていたこともできるようになり、3学期は児童からやりたい活動を提案するようになった。</p>

②気持ちや考えを整理・表出する方法を身に付け、自身から気持ちや考えを伝えることの自信につなげる。

ねらい	活動内容	対象児の変化
<p>・気持ちや考えを整理するために</p>	<p>ホワイトボードや付箋・メモ等を活用する。</p> 	<p>◇<u>調べ学習で調べたことを整理し、調査報告(クイズ)作りの材料にすることができた。</u> 調べたことや分かったことを対象児や教師が付箋にメモし、ホワイトボードや紙に並べたり並べ直したりして考えを整理することができた。</p>

<p>・気持ちを伝えるために</p>	<p>「By Talk for school」で気持ちを伝える時間を設定。</p>  <p>指導の最初 1週間の振り返りで気持ちを伝える。</p> <p>指導の最後 学習の振り返りとして気持ちを伝える。</p> <p>その他 小集団活動の振り返りで、他の巡回校にいる教師（実施者）にその時の気持ちを伝える。</p>	<p><u>◇自分の気持ちや考えを言葉(文字)で入力し伝えることができた。</u></p> <p>初めは気持ちや考えを文字で入力し伝えることに抵抗があったが、スタンプを使った気持ちの表出には抵抗なく取り組むことができた。</p> <p>1学期 スタンプ・画像で気持ちや活動内容を伝え、気持ちを単語で文字入力。</p> <p>2学期以降 手書き文字入力により、スタンプや画像に加え、単語や文章で気持ちや考えを伝えられるようになった。クイズを出し合うなど他愛もないやり取りを楽しむこともできるようになった。</p> 
--------------------	---	---

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

◇できることが増えたことで、得意なことだけでなく苦手なことにも「やってみよう」と思える活動や実際に取り組める活動が増えている。

(対象児より 『好きなもの調査』クイズ作り場面にて)

「(古代文明の本を片手に…)友達にこのテーマでクイズを作る!」

(保護者より)

「関心のないことには消極的で、自分から取り組めないことが多かったのですが、タブレット学習を始めてから、自分から取り組めることが増えてきたように感じます。」

◇様々な活動から、伝えることの楽しさを感じられたことで、自分から伝えることへの抵抗が軽減している。

(対象児の言葉より)

「クイズ、楽しかったしドキドキした。」「またクイズやってみたい。」「クラスの友達にクイズ出してもいいよ。」

(By Talk でのやりとりについて 対象児のコメント)

「先生からすぐに返事が返ってきたから、すぐにメッセージ送ったよ。」「先生、漢字難問クイズ送ったけど、分かった?」

◇自分のことを受け入れられるようになり、在籍学級での学習につながる iPad の活用が可能になってきている。

『好きなもの調査』調査報告(クイズ)を出す人

1学期 担任の先生だけ(他の人は絶対ため)

9月 担任の先生と他の先生

10月 仲良しの友達

11月 クラスの友達も OK

アンケート(学期に1~2回)の結果より児童の考え・行動に、左枠のような変化が見られた。

これまでは、特別支援教室だけの iPad を使った学習になっていた。この1年で対象児にとって iPad での学習が児童の自信につながり、クラスの友達にその学習について知ってもらうことへの抵抗が少なくなっている。

保護者より「iPadでの学習への考え方が変わりました。今後も継続して取り組んでほしいです。」という話をいただくことができた。

⇒クラスでの学びの場にiPadを取り入れることが可能になりつつあると考えられる。今後はクラスや家庭での学習にどのように活用することができるか、対象児にあった活用方法を見つけていくことが必要だと考えている。

○エビデンス(具体的数値など)

URAWSS II での変容

		昨年度	今年度
書き課題		A	A
読み課題		A	A
内容理解	読み課題	3/6問中	4/6問中
	読み介入課題	6/6問中	5/6問中

URAWSS II 書き課題(書き写し)での変容

一行とばし

一行とばし

昨年度(3年)書き課題

今年度(4年)書き課題

読みや書きの速度に関して、大きな変化は見られなかった。

しかし、対象児が課題に取り組む様子や上記の書き課題から以下の変容が見られた。

書き課題に取り組むことへの抵抗が軽減した。

筆圧が強くなった。

言葉をまとまりで捉えられるようになり、行や文字をとばして書き写すことがなくなった。

読み課題において、介入課題による内容の理解が断然分かる本人は話している。しかし、対象児自身で読み、内容を理解することに関して、分からないから適当に○×を記入することなく熟考する様子が見られた。

指導当初は、書くことへの抵抗があり、書くことの代替としてキーボード入力等の支援を考えていた。今回の取り組みにより、対象児は50音キーボードで入力したい文字を見つけることに困難さがあることが分かり、「mazec」を使って手書き入力を取り入れることにした。そのことにより、対象児は「書くことへの抵抗」から「書くことで伝わる楽しさ」を感じるようになったと考える。また、「mazec」を使って「入力する」方法に気づき習得したことで、記録したり作成したりしたものが、人に伝わり自身でも参照できる経験を重ねることができてきている。この一年間の取り組みで経験し身に付けたものを、今後は日常生活や学習など活用場面を広げられるようにしていきたい。

○その他のエピソード

本人のアンケートより

Q 手書き入力とキーボード入力どちらが良かったですか?その理由は何ですか?

A(児童コメント) 入力方法:手書き入力がよい。

その理由:字を書くと書きたい言葉や漢字が出てくる。

キーボード入力では、書きたい文字が思い出すことや探すことが難しい。